

平成 29 年度 第 6 回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(キャリア協) 実技試験 (論述) 解答例 (中里)

※今回の問題の中心になってくるのが、「ワークライフバランス」という考え方です。育児や介護をしながら生き生きと働けるよう支援する、という課題になります。

[設問 1] 逐語の空欄 A で、キャリアコンサルタントとしてあなたならどのような応答をするか記述せよ。

(10 点)

「子育てと仕事を両立できそうに感じていた矢先、同期の女性が昇進したと知り、予測はしていたもののショックだったんですね。」(2 行) ←「要約と感情の反射」

[設問 2] キャリアコンサルタントとして、あなたが考える相談者の「問題」を記述せよ。(10 点)

「“管理職になり会社で活躍したい”という自身のキャリアビジョンは明確であるものの、ワークライフバランスという視点で自身の働き方を捉えることができず、“管理職昇進”という今ここでの問題のみに囚われていて、中期・長期的な視点で自身のライフキャリアプランが描けていないこと」(3~4 行)

[設問 3] この事例の展開に関し、以下の問いに応えよ。(30 点)

(1) Z さんに対しどのような提案を行うか。逐語の空欄 B に入る、あなたが考える語句を 2 つ記述せよ。

- ① 「中・長期的な自身のワークライフバランス (仕事と育児の両立)」
- ② 「中・長期的ライフキャリアプラン」

(2) 設問 3 (1) で解答した 2 つのうちいずれかを選択して、キャリアコンサルタントとしてあなたはこの先、どのような働きかけを行うか、具体的に記述せよ。

②のケース

子育てと仕事の両立に向けて努力していることを労い、自身のキャリアビジョン (目標とする働き方) である管理職として働くことを目標に置き、「ライフキャリアプラン (人生設計における働き方プラン)」の作成を促す。具体的には、子どもの年齢 (成長) を軸にしたライフプランをベースに、子どもが何歳になれば短時間勤務が終了し、子どもの成長、就学に伴い、子育てにかかる時間が仕事に移行していくかをライフプランに反映させていく。作成した中・長期的なライフキャリアプランを確認することにより、子どもの成長とともに育児から仕事への時間配分の移行が明確になり、今の働き方がずっと続くわけではなく、最終的には、仕事も子育ても目標通りに手に入れることが想定でき、前向きに働けるよう支援していく。(7 行)